

講義予定

2025. 9.18. 大橋 幸泰

[概要と目標]

近世日本の政治・経済・文化の諸相から、他の時代の秩序とは異なる近世固有の秩序を見だし、その特徴について考えるための材料を提供する。とりわけ、現代の常識や価値観とは異なる近世のそれを知ることにより、私たち現代人の秩序を相対化して歴史を学ぶことの意味を考える。

[講義予定]

- 9月18日 1.ガイダンス／歴史的存在としての私たち—日常生活のサイクル
- 9月25日 2.幕藩体制の成立と幕府政治—「1 天下人による列島統合」「5 泰平の世の幕府政治」
- 10月2日 3.17世紀の朝廷と幕府—「2 近世前期の朝廷と文化」「3 近世前期の政治と外交」
- 10月9日 4.身分とジェンダー—「4 身分社会の見方」「18 近世社会におけるジェンダー」
- 10月16日 5.藩世界の秩序—「6 藩から江戸時代を見直す」「11 大名屋敷と江戸の都市社会」
- 10月23日 休講
- 10月30日 6.民衆の生活と政治意識—「7 環境と生業」「8 民衆思想と民衆運動」
- 11月6日 7.中間小活—近世秩序の成立と展開をめぐる議論の時間
- 11月13日 8.琉球と蝦夷地—「9 近世日本と清・琉球」「16 列島北方の社会と交流」
- 11月20日 9.商業活動と出版文化—「10 商人の活動と交通」「13 知と書物の広がり」
- 11月27日 10.災害と病—「12 近世の大火・水害・地震」「17 医療をめぐる社会と文化」
- 12月4日 11.地域社会と民衆文化—「14 土豪・豪農と地域社会」「15 歌舞伎・浄瑠璃にみる民衆文化」
- 12月11日 12.19世紀の政治と対外関係—「19 大御所時代」「20 世界の中の幕末日本」
- 12月18日 13.総括—近世秩序の変容と崩壊をめぐる議論の時間
- 1月8日 14.試験

[教科書]

牧原成征編『日本史の現在 4 近世』（山川出版社、2024年）

[参考文献]

深谷克己著『日本の歴史 6 江戸時代』（岩波ジュニア新書、2000年）

[付記]

- 1.次回以降、レジュメについては、前日 23 時 59 分までに Hoppii にアップするので、各自印刷して講義に持参するか、ノートパソコンなどから閲覧すること。
- 2.講義の予習として、教科書として指定した、『日本史の現在 4 近世』の該当箇所(各回内容の番号は同書の章番号)を熟読してくることを求める。
- 3.試験のほか、小レポートを求める。小レポートの詳細は別途指示する。なお、小レポートを提出した者が試験の受験資格を得る。
- 4.大橋と受講生との間の緊張関係を維持するため、毎回、講義の要約(200～400字程度)を記した講義記録の提出を求める。講義中に時間をとって講義記録を書く時間を確保するので、ノートパソコンなどから、Hoppii の提出先へ、講義中に提出することが望ましい。講義中に提出できない場合は、翌日(毎週金曜日 23 時 59 分提出期限)までに提出する。この提出をもって出席とみなす。箇条書きではなく、必ず文章にまとめること。ただし、講義記録そのものは評価対象にしない。なお、レジュメにはない語を一つ「本日のワード」として講義冒頭に指定するので、この語を必ず含めて講義記録を作成することとする。この「本日のワード」が不記載の場合は、出席したと認めない。